

# 令和5年度 公共事業事後評価調書

## 1. 事業説明シート

(区分) 国補 県単

事業名	街路事業 [緊急街路整備事業 (国補)]		事業箇所	甲府市丸の内	地区名	(都) 甲府駅前線外1路線	事業主体	山梨県
(1) 事業着手年度	H25	(2) 事業期間	H25~H30		(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	3,540百万円
<b>(5) 事業着手時点の課題・背景</b>					<b>(8) 事業位置図等</b>			
<p>甲府駅南口周辺地域は本県の都市づくりの重要拠点となっており、拠点にふさわしい都市機能の充実と空間整備を図るべきエリアであった。また、県都の玄関口にふさわしい景観づくりが重要な課題となっていた。そのため、平成24年3月、県と甲府市が共同で「甲府駅南口周辺地域修景計画」(以下「修景計画」)を策定した。</p> <p>甲府駅南口周辺地域には、オープン県庁敷地整備、県庁防災新館整備、甲府城周辺地域整備などがあり、修景計画と整合を図りながら進められている。本事業では、修景計画に基づき、甲府駅南口駅前広場と平和通りの再整備を行った。</p> <p>当事業においては、公共施設の再整備とともに、官民一体となって空間的な魅力向上や街のポテンシャル増大を図り、住居者、就業者、観光客を増加させ、多様な交流機会の創出、民間活動の活発化などにより中心市街地活性化を目指したものである。</p>								
<b>(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果</b>								
<input type="checkbox"/> 主要目標 ○道路景観の向上  <input type="checkbox"/> 副次目標 ○歩行者等の通行空間の確保  <input type="checkbox"/> 副次効果 ○身近な緑地・交流の場の提供 (甲府駅南口駅前広場) <input type="checkbox"/> 重要プロジェクトの位置づけ (甲府市中心市街地活性化基本計画)								
<b>(7) 整備内容 (目標達成の方法)</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前広場 L=93m W=36m A=12,200m<sup>2</sup> 一般車ロータリー、駐輪場、バス・タクシーロータリー</li> <li>・(都) 甲府駅前線 L=430m W=36m</li> <li>・(都) 甲府駅南通り線 L=150m W=20m</li> </ul>								

## 2. 評価シート (1)

### (1) 事業貢献度

〈良・不良〉

(理由)

本事業の実施により、歩行者や車椅子利用者などが周辺施設にスムーズに移動できるようになった。また、公共交通と一般交通を分離し、歩行者優先の空間づくりに取り組んだことで、安全な歩行空間が確保され、歩行者が増えた。

#### ① 主要目標 道路景観の向上

指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等
歩行量	1.71万人/3日 (H24甲府市調査)	1.86万人/3日 (R4甲府市調査)
景観形成に取り組んでいる地域	甲府城跡風致地区	甲府城跡風致地区

□ 評価

歩行量の増加によって、賑わいをつくり出すことができた。

#### ② 副次目標 歩行者等の通行空間の確保

指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等
歩行者・自転車交通量	9,681人台/12h (H25実測)	9,972人台/12h (R4実測)
主要駅からの距離	—	—
他事業との連携	無	無

□ 評価

駅前広場整備により、安全な歩行空間が確保され、歩行者が増加した。

#### ③ 副次効果

項目	内容
身近な緑地・交流の場の提供	甲府駅南口駅前広場の整備
重要プロジェクトとしての位置づけ	甲府市中心市街地活性化基本計画の位置づけ

#### ④ その他の事業効果の発現状況

本事業の実施により、県の玄関口にふさわしい街並みと歩行者にやさしい広場となった。また、駐輪場の設置等によって、放置自転車が減少し、駅前の景観が改善された。

### (2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化

〈有・無〉

項目	着手時点	事後評価時点
総事業費	3,757 百万円	3,540 百万円
工期	H25~H30	H25~H30
評価基準年	H25	R5
費用	2,696 百万円	3,650 百万円
建設費	2,606 百万円	3,529 百万円
維持管理費	90 百万円	121 百万円
	百万円	百万円
便益	6,117 百万円	6,717 百万円
歩行者の時間短縮便益	1,063 百万円	2,623 百万円
自動車交通利便性向上便益	3,943 百万円	2,985 百万円
歩行者の移動サービス向上便益	1,010 百万円	1,008 百万円
交流機会増大、都市景観向上便益	101 百万円	101 百万円
B/C※	2.3	1.8

※採択基準は、費用便益比 (B/C)  $\geq$  1.0  
(要因変化の分析)

路線バスの系統の統合や、減便によりバス利用者が減少したことにより、自動車交通利便性向上便益が減少したことにより費用便益比が下がった。

### (3) 事業実施による環境の変化

#### ① 自然環境への影響

なし

#### ② 生活・居住環境等への影響

歩道整備により、歩行者、自転車の通行空間が確保され、周辺住民や広場利用者に利用されている。

#### ③ 環境保全対策の効果発現状況 (措置を講じた場合)

なし

### (4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響

#### ① 社会経済状況の変化

なし

#### ② 関連計画・関連事業の状況の変化

なし

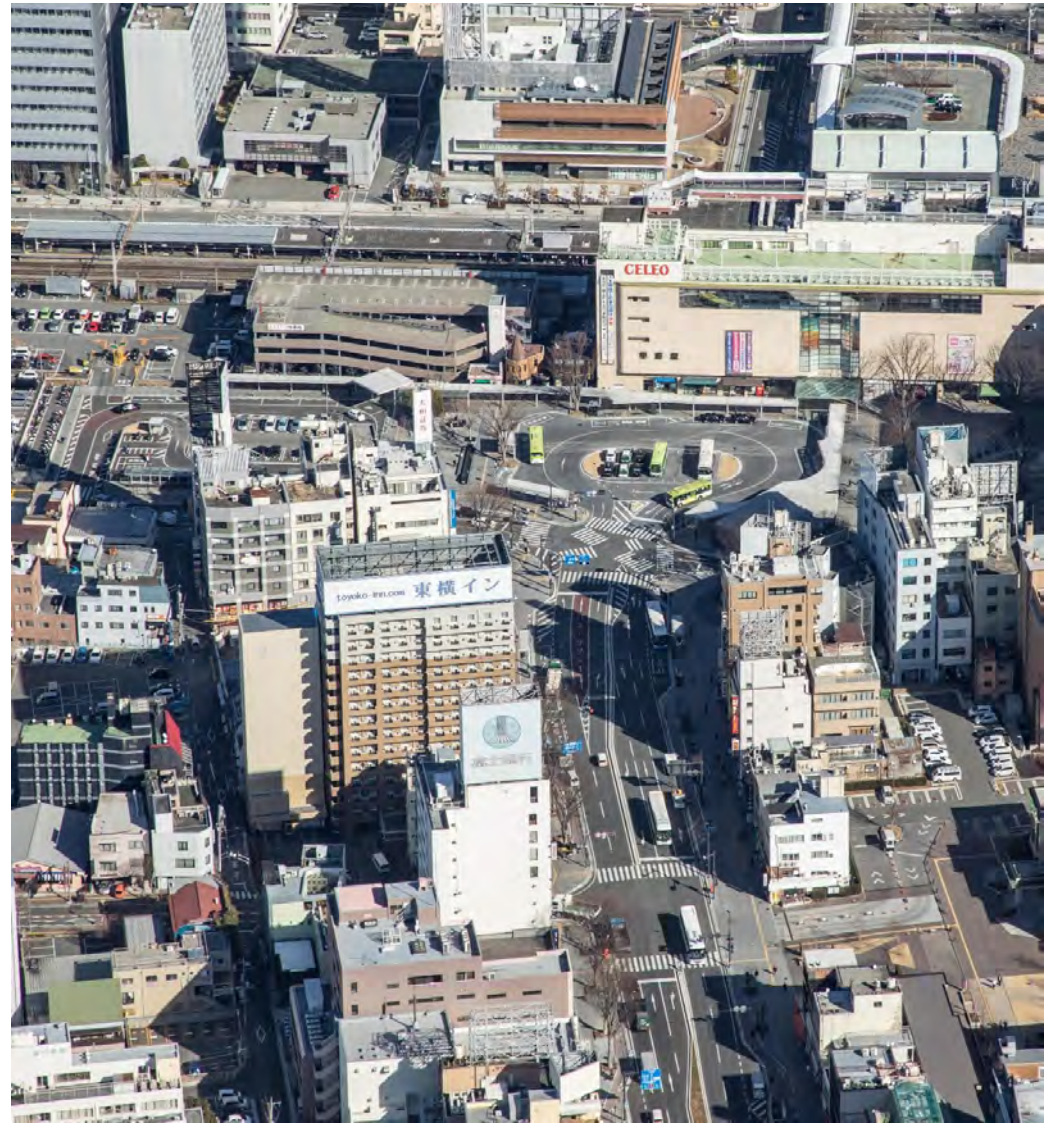
#### ③ 事業環境等の変化

なし

評価シート（2）

<p><b>（5）今後の事後評価の必要性</b> <span style="float: right;">〈有 <b>無</b>〉</span></p> <p>（理由）          評価シート（1）により、評価時点において歩行者優先の空間づくりに取り組んだことで歩行量が増加し、街の賑わいにつながったことから、初期の目標は達成され、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法          ・時期：            年度          ・方法：</p>	<p><b>（7）同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性</b> <span style="float: right;">〈有 <b>無</b>〉</span></p> <p>（理由）</p> <p>なし</p> <p>（具体的反映策）</p> <p>なし</p>
<p><b>（6）本事業における改善措置の必要性</b> <span style="float: right;">〈有 <b>無</b>〉</span></p> <p>（理由）</p> <p>なし</p> <p>（具体的反映策）</p> <p>なし</p> <p>（既に実施した改善策の内容と効果）</p> <p>なし</p>	<p><b>（8）事業評価手法の見直しの必要性</b> <span style="float: right;">〈有 <b>無</b>〉</span></p> <p>（理由）</p> <p>なし</p> <p>（具体的反映策）</p> <p>なし</p>
	<p><b>（9）その他特筆すべき事項</b> <span style="float: right;">〈有 <b>無</b>〉</span></p> <p>本事業の実施により、駅前広場が整備され、広場を活用したイベントの開催により、賑わいが創出された。</p>

### 3. 添付資料シート (1)



①整備後状況

### 3. 添付資料シート (2)



②事業着手前



②現在の状況



③事業着手前



③現在の状況

### 3. 添付資料シート (3)



④事業着手前



④現在の状況



⑤整備後のイベント状況



⑥整備後のイベント状況

### 3. 添付資料シート (4)



⑦事業着手前



⑦現在の状況



⑧整備した駐輪場



⑨整備した一般車ロータリー